



# 三笠だより

舞鶴市立三笠小学校  
学校だより 2学期最終号  
令和元年12月24日 発行  
<http://mikasa.maizuru.ed.jp/>



## 読書に没入の楽しさを味わって



2学期の課程を終え、本日終業式を行いました。2学期は、様々な行事や取組がありました。その中で、子どもたちは一人一人のよさを発揮し、達成感を味わい、大きく成長しました。これも、登下校の見守りや各行事へのご協力をはじめ、保護者・地域の皆様の温かいご理解・ご支援のおかげと、心より感謝申し上げます。

「読書は心の栄養である」と言われ、子どもの成長にとってとても重要なものです。子どものときに本に親しんだ子は、生涯読書を楽しむことなのでしょう。様々なジャンルの本があり、子ども向けの本も多種多様ですが、今の子どもたちはいわゆる古典、名作と言われる物語をどのくらい読んでいるのだろうと思い、4年生～6年生にアンケートを取りました。世界の名作、名作童話、日本の児童書から選んだ44冊について、これまでに読んだことのあるものに丸を付けてもらいました。結果の一部を紹介します。「白雪姫」「シンデレラ」などの童話は、幼児向けの絵本も多く出されていることから65%程度の子が読んだことがあると答えていました。しかし、「みにくいアヒルの子」は41%と、かなり有名なお話でも半数以上の子が読んでいませんでした。物語では、「赤毛のアン」「トムソーヤの冒険」が25%、「15少年漂流記」が5%弱という結果でした。

興味深かったのが、4・5・6年生でそれほどの差はなく、学年が上がるにつれて読んだことがある子が増えるということでもなかったことです。つまり、10歳くらいまでに読む機会がなかったら、その後学年が上がっても、自然に読むようになるというわけではなさそうです。もちろん、古典、名作と言われる本以外にも素晴らしい本はたくさんあります。しかし、世界中の人々が昔から親しんできた物語には、やはりよさがあり、子どもの時代にぜひ読んでほしいと思います。将来、外国の人と接することになったとき、共通の話題ができずし、旅行先ではお話を知っていることで楽しみが増えるでしょう。でも、それらは結果であって、読書は何か役に立つから読むというより、読んでいるときのわくわく感がたまらなく楽しいし、そんな読書の楽しさにぜひ浸ってほしいと思います。

アンケートで選んだ本はほとんど図書室にありますし、もちろん市の図書館にもあります。4～6年生の子どもたちには、本のリストとして紹介しました。冬休みのひととき、おうちの方と一緒に図書館を訪れる機会を作っていただいたり、家族みんなで読書を楽しむ時間を作っていただいたりというのはいかがでしょうか。

子どもたちにとって楽しい冬休みですが、車も多くなり、気ぜわしい雰囲気になる時期でもあります。交通安全には十分気を付けるよう、学校でも指導いたしました。

1月7日（火）の始業式には、笑顔で元気に3学期が迎えられますよう、よろしく願いいたします。

皆様、よいお年をお迎え下さい。

校長 小島 みどり  
教職員 一同



すてきな  
ありがとう

六年生は、小中連携の  
先生に英語の授業をお  
話になってから大変だ  
その先生から大変だ  
いお話を伺うことが  
ました。二年生の授  
業の日の最後の英語  
が終わると六年生が  
の終わるころに二年  
口々に「二年生、あ  
とうございまして。三  
期もよろしくおしま  
です。」と言ったこと  
です。」と担任の先生  
で考えたわけではな  
れたよって、お礼の葉  
えを言うて、「こんな  
とを言うて、「こんな  
て思っつても、なか  
感で言っつても、なか  
先生が言っつても、なか  
た。先生が言っつても、なか